活動報告

古民家における子育てサロンの実践について

小長　香奈路（ママコモンズ）
泉　　圭 子（週末コモンズ）

1．古民家での子育てサロン

世田谷区役所本庁舎から徒歩で数分、世田谷線世田谷駅と松陰神社駅の中間地点に、築約160年の古民家がある。公道からのアプローチは、法的な位置づけは隣地との共有の「私道」でありながら、土のままの表面を残してあるため、中庭のような風情を生み出している。既存の樹木を生かして植栽の整備がなされた隣地マンションと、塀で遮られることなく連続し、響きあうようにたたずむ中、樹齢約250年の欅が、それらを見守るように梢を伸ばしている。

この古民家では、2002年4月から2010年3月までの間、ＮＰＯ法人が、所有者との賃貸契約を結び、「松陰コモンズ」というプロジェクトが展開された。プロジェクトは大きく分けて、「シェアードハウス」（居住者が食堂・台所・浴室などを共有しながら、個人の占有スペースを持つ共同住宅）と「大広間を地域へ開く活用」の２つであった。

2010年4月からは、古民家の所有者と、子育て関連の活動を行う個人、団体が集まって、「古民家ママス」という新たなプロジェクトがスタートし、「子育てサロン」や人形劇の上演、季節ごとの行事など、0-3歳の未就園児（乳幼児）を中心に広く親子を対象とした子育て支援事業を行う場所となっている。

（古民家玄関）

（私道部分からのアプローチ）

「ママコモンズ」は2005年10月に、この古民家を拠点として活動を開始した子育てサロンである。発起人は、まもなく1歳になる第1子を持つ、3人の母親であった。

「ママコモンズ」の定例の子育てサロンは、月5回、火曜日と第2月曜日に未就園児とその母親が集まり、一組500円の参加費を払う。おやつを持参した参加者は参加費が割引になる。スタッフが用意した、体に負担の少ない手作りのおやつと、各種のノンカフェインのお茶を囲んで、古民家でおしゃべりをしながらゆったりとした時間をすごす。

一方、「週末コモンズ」は2010年4月に、「ママコモンズ」の活動から派生した新たな「子育てサロン」である。月1回、土曜日に、午前中は持ち寄り昼食会、午後はお茶とおやつを用意してくつろぎつつ、希望者は「子ども衣料と絵本などの交換会」に参加できるサロンを開催する。昼食会からの参加はひと家族500円（午後の参加費込み）、午後からの参加はおとな一人300円である。

本報告では、「ママコモンズ」及び「週末コモンズ」の活動を通して、世田谷区内の古民家における子育てサロンの実践及びその後の展開を紹介する。

2．子育てサロンとは

「子育てサロン」は、「子育て中のお母さんたちと地域住民による、情報の交換、子育て相談等の交流の場」（社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会（以下「社協」という。）ＨＰによる）である。

世田谷区内の個人宅、地区会館、公園、支えあい活動拠点などを活動拠点とし、お茶やおしゃべり、レクリエーションなどを行う活動に対して、社協が支援を行っている。その数は、2010年5月24日現在、83ヶ所にのぼる。

社協の「子育てサロン」として登録されると

・広報活動の支援（社協のＨＰや印刷物での紹介、区立施設等にチラシ設置）

・会場費の一部補助（1回あたり最大1000円）＋運営経費の一部補助（1回あたり最大1000円）

・スタッフと参加者を対象とした傷害保険が適用される

などの支援を受けることができる。また、社協、あるいは世田谷区の担当部署から、子育て関連イベントや会議などの情報を送っていただけるようになる。

それとひきかえに、サロン運営者は、子育てサロンの定期的な開催、及びその広報を行うことが求められる。また、社協あてに、実施報告を提出する義務が生じる。

3．「ママコモンズ」の始まり　http://plaza.rakuten.co.jp/commonsmama/

子育てサロン「ママコモンズ」の発起人は、2004年から2005年にかけて第1子を出産し、育児休業を取得、あるいは退職しており、それまでの社会人生活（金融業、イベント

企画等）からいったん離れた3人であった。（小長はこのうちの一人である）。初めての子育てを世田谷区内で行う中で、3人は既存の子育てサロン（子育てを終えた先輩女性の個人宅で開かれていた）や、おうちカフェ（幼稚園児の子育て中の主催者の自宅で開かれていた）の参加者として出会う。そのなかで「松陰コモンズ」の大広間が貸し出されていることが話題になり、月に一度開かれていた「お座敷カフェ」（シェアードハウスの居住者と、古民家に興味のある一般参加者が集う茶話会）に参加して、松陰コモンズにおける子育てサロン開催の許可を得た。数ヶ月の準備期間を経て、2005年10月17日、第1回の開催に至る。

初回は好評のうちに終了し、その日のうちに「自分もスタッフとして活動したい」という女性が1名加わる。以後、児童館の休業日である月曜日に、月1回のペースで定期的に開催することとした。11月の開催で、さらに1名のスタッフ希望者が現れる（これが泉である）。また、発起人の友人、あるいは新たな参加者がスタッフとしての活動を希望するなどにより、2006年3月には11名のスタッフが活動するようになった。

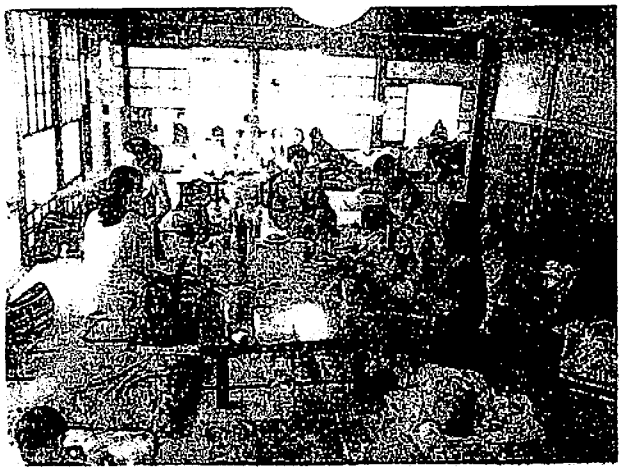
4.「ママコモンズ」の特色

（1）場所

「ママコモンズ」は、ロケーション及び空間の力に大きく助けられている。

古民家のたたずまい、周囲のみどりとの調和、縁側のある二間続きの大広間・・・歩くことのできない乳児（「ねんね」や「はいはい」の赤ちゃん）を見守りながら過ごす親にとって、古民家は安全でありつつ、くつろぐことができ、魅力的であった。また、シェアードハウスの住民は単身の社会人であり、平日の日中、古民家は無人であった。このため、ひとの気配を感じつつ、参加者があまり気兼ねせずに滞在を楽しむことができた。

私道部分は、古民家を訪れるために乗ってきた自転車やベビーカーをおいておくことのできる十分なスペースとなった。隣地マンションとの関係に配慮し、自転車は古民家側に並べること、また、マンション側の敷地には立ち入らないこと、私道部分は通行にのみ供しており、お庭のように遊ぶことはできないことを理解してほしい、と、参加者にくりかえし呼びかけた。結果的に、動きが活発になるおおむね3歳以上の意欲を満たす場所とならなかったことも、子育てサロンとしての活動を継続できた一因であると考える。



（定例サロンの様子）

（スタッフが持参するおやつ）

（2）「できるだけ」を合言葉に

「ママコモンズ」では、母乳育児を続ける、または子どもに水分を与えるにあたり、無理なくおいしく、カロリーを増やさないノンカフェインの飲み物（タンポポ茶、ハーブティーなど）を常備した。またゆっくりお茶をする時間もない母親のために手作りおやつを用意した。おやつは、子どもが食べることも想定し、おやつがいわば「4 回目の食事」であるということを意識して、簡単につくることができ、砂糖を使わずに甘みやおいしさを出す菓子（トマトとバジルの蒸しパン、レーズンクッキーなど）とした。スタッフはそうしたものを持ち寄って、サロンでのお茶とお菓子にした。ただ、そこで大切にしたのは「できるだけ」ということばであった。作る余裕がなければ旬の果物でも、おにぎりでも、ふかしいもでもいい、飲み物はほうじ茶や、水でいい。コップや食器の持参についても、協力は呼びかけるが、貸し出し用の食器も準備する、というおおらかさを大事にしてきた。

（3）各世代が、志を同じくして集う

発起人の 3 人が、それぞれ 20 代・30 代・40 代であったことも特色のひとつである。スタッフは現在も各世代が揃うためどんな世代の方も参加しやすい。また、スタッフは子連れで自分のできること・好きなことについて協力すればよいのであり、スタッフになりやすい。また「お友達同士」で始めたのではなく、意識や志、趣味嗜好が重なる部分がある者が集まったこと・集まっていくことも 5 年間継続できた理由である。

（4）ブログと口コミで活動が広まる

発足当初からブログ（http://plaza.rakuten.co.jp/commonsmama）を開設し、告知は友人への口コミと参加者を対象としたメーリングリストが主であった。すでに携帯メールが普及しており、会場に到着した参加者が「今、ここでこんなイベントをやっているから、よかったら来たら？」というメールを送り、数十分後に友人が合流する、という風景が、

当たり前に見られた。

（5）企画を徐々に増やし、資金の助成も受ける

「ママコモンズ」の活動開始からまもなく、スタッフから「持ち寄り昼食会」をやりたい、との提案があった。検討の結果、月曜日以外の活動については、提案者が企画・運営に責任をもつ「annex」として開催することとし、最初の企画は2006年11月に「持ち寄りカフェ」として開催された。

以後、ハロウィーン、七夕などの季節の行事、手編みなどの手作り、保育園についての情報交換会、子どもの洋服の交換会など、多種多様な内容を「annex」として開催してきた。

また、おやつの講習会を、料理研究家を講師として開催するにあたり、2006年度に初めて、世田谷区の社会教育団体の講師謝礼の助成を受けた。

発足後、2009年3月までの開催実績は以下のとおりである。

2005年10月～2006年4月　定例6回＋annex8回＋イベント参加1回

2006年4月～2007年3月　定例9回＋annex4回＋イベント参加2回＋助成金事業1回

2007年4月～2008年3月　定例10回＋annex3回＋イベント参加3回＋助成金事業1回＋合同企画1回

2008年4月～2009年3月　定例11回＋annex3回＋イベント参加2回

これらの経験が、2009年の「世田谷区子ども基金」助成を受けての事業実施、そして2010年の「古民家ママス」への参画につながることとなる。

（6）メンバーが入れ替わりながら続いている

子育てサロンの発起人は、自分の子どもが参加者と同年代である母親たちと、子育てが一段落した女性たちの2つに大きく分けられる。前者の場合は、自分の子どもが大きくなるとサロン開催を終了してしまうこともあるが、「ママコモンズ」は育児休業中（復職予定）のスタッフが多かったことから、当初より、スタッフが入れ替わったり、定例サロン担当からannex担当にまわったりしながら、開催を続けることを目標としてきた。

実際には、その根底を一貫して支えてきたスタッフ（小長・泉）が存在するが、スタッフとして活動した女性は、5年間に30人を超え、活動期間は、育児休業中の1年、幼稚園就園までの2年など、さまざまである。ここ1年ほどは、フリーランスで働き、写真撮影、アロマセラピーなどの専門技術を生かして、子育てサロンの中で、希望者に講座を開催しつつ、ほかの日にスタッフとして会場に常駐するスタッフが増えている。

また、活動を終了する契機も、職場復帰、幼稚園入園のほかに、転居（住居購入や夫の転勤、あるいは離婚に伴うもの）、起業(バランスボールエクササイズの講師)など、女性の

生活変化の多様さを実感させる。

（7）行政や他の子育て支援団体との連携が取れている

世田谷区は、2004年に「子ども部」を発足させ、子ども・子育て総合センター、産後ケアセンター、子育てステーションなど、各種の子育て支援拠点のハード整備を行うとともに、「さんさんサポート（産前産後の家庭への家事・育児援助者の短時間派遣）」や「せたがやこそだてコンパス(妊娠届提出時に配布される子育てに関する総合的な情報冊子)などのソフト事業も充実させてきた。

冒頭で述べたとおり、古民家は世田谷区役所から徒歩数分の場所である。つまり物理的に、区役所が非常に近い。2009年より、世田谷区の開催する子育て支援のイベントに「子ども用品交換会」の出展をさせていただくようになったが、この際も、世田谷区子ども部の担当者との物品受け渡しを古民家で行うなど、お互いに時間と手間を省いて準備をすすめることができた。また、担当者は、研修会の案内や助成金情報の提供、子育て支援広報誌への活動紹介文の寄稿依頼など、積極的に顔の見える関係を築いてくださっている。

民間の子育て支援活動も活発であるが、その先駆者である「ＮＰＯ法人せたがや子育てネット（以下子育てネット）」より、世田谷区が主催し、子育てネットが企画・運営面で協働する「せたがや子育てメッセ」（現在は区が直接実施）への出展を打診されたのが、2006年の1月であった。「ママコモンズ」が活動を開始してわずか3ヶ月目である。このとき、不用品交換会と手作りおやつの販売で出展し、おやつが終了時刻前に完売する、という好評を博した。

その後も、子育てネットとは、「保育サービス座談会」を共催するなど、協力して事業を進めている。また「ママコモンズ」のスタッフは「せたがや情報メッセンジャー（子連れお出かけマップの作成）」や冊子「せたがや子育てライフ保育園編」の製作など、子育てネットの各種の事業にスタッフとして加わっている。

その他、他の子育てサロン（アドシュガー、ダンシングエンジェル）やグループとも、「持ち寄り夜ごはん」等合同イベントの開催などを行っている。

5．転機の2009年－「世田谷区子ども基金」助成を受ける

「世田谷区子ども基金」（以下、子ども基金）は、世田谷区の設置した基金である。元金2億円に加えて、区民などからの寄附金を積み立てる。次代を担う子どもの成長を支える活動・支援を必要とする子ども、家庭を支える活動・親の子育て力の発揮を支える活動・地域の子育て力の向上のための活動などを行う団体または個人の活動に助成を行う。平成21年度は19団体に対し助成を行った。（世田谷区ホームページより）

「ママコモンズ」は、2009年度、子ども基金の助成を受けて「未就園児の親自身による

生活スタイル提案講座」を実施した。助成金総額は、710,040円、実施期間は、2009年4月20日から2010年3月29日までの約1年となった。

実施内容は以下のとおりである。

・「先輩ママとのお茶会」　10回　おんぶひもおためし会、おためしヨガ、おやつ講座など

・「手づくり講座」　6回　てぬぐい子ども服、フェルトコサージュ、指編み、裂き布バッグなど

・「こどもと遊ぼう講座」　4回　夕涼み、どんぐり工作、英語の歌とお話し、外あそびと外ごはんなど

・「子ども衣料と絵本等の交換会」　4回

・「食育講座」　2回　あずきメニュー、ローフード

・「小児医療との付き合い方を学ぶ講座とワークショップ」1回

これらの開催により、2009年4月～2010年3月の「ママコモンズ」の活動は、定例13回＋annex18回＋イベント参加6回＋助成金事業31回（26講座）となった。

この5年間の活動により蓄積されてきた事業を、子ども基金の助成を受けることにより、一斉に展開した。会場も古民家を飛び出し、弦巻区民センター、世田谷文化生活情報センター生活工房などで開催した。

事務局は当時、第2子の育児休業中だった小長がつとめ、「ママコモンズ」のスタッフが総出で対応した。助成事業専用のブログも立ち上げ、積極的な情報発信を行った。

助成事業の実施成果は以下のようなものであった。

・26講座開催、参加人数延べ962人

・新規スタッフ5名増（現在も4名が継続）

・新団体「週末コモンズ」の活動開始（後述）

・見守りサポーターによる1～3歳児同伴者の参加増

・新規プロジェクト「古民家ママス」への参画（後述）

・大学・市民団体等に加え、企業（(株) 井村屋の社員グループ、(株) アミタ）・女性起業家等と協働

・雑誌・TV取材受け入れ（NHK「すくすく子育て」にて、小児医療の講座とワークショップの内容が2009年12月5日に放映され、テキストにも掲載された）、参加者の投稿の新聞掲載（2009年10月6日朝日新聞「声」欄）

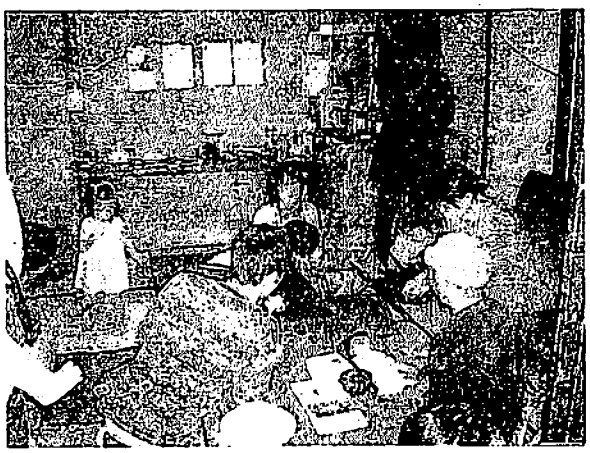
6.「週末コモンズ」立ち上げ　http://ameblo.jp/mamacommons

子ども基金助成事業として、「子ども衣料と絵本などの交換会」を4回、週末に実施し

たところ、家族での参加が多く見られ、父親が参加しやすいことがわかった。また、子育てサロンへの参加の経験がないが、活動に参加したいという希望者も現れた。そのため、2010年4月より、新たな団体「週末コモンズ」を立ち上げ、活動を開始することにした。代表はフルタイムで勤務する泉が勤めることとなった。

午前中に昼食会を付け加えたところ、家族での参加者が回を重ねるごとに増え、午後のサロン・交換会を含めて、ゆったりと楽しむ姿が見られている。

「ママコモンズ」とは異なり、週末にしか開催しない。活動内容も、今のところは限定し、作業フローなどをしっかりと整備した。このため、フルタイムで働いている、子育てサロンへの参加経験がない、年に2回程度しか参加できない、などというような人でも、スタッフとしてスムーズに参加できる体制ができている。



（参加者家族同士での談笑）

（交換会の風景）

7．プロジェクト「古民家ママス」への参画　http://ameblo.jp/kominkamamas/

古民家の所有者は、ＮＰＯ法人との賃貸契約を2010年3月で終了することを決め、「松陰コモンズ」終了後の活用形態について模索していた。「ママコモンズ」の活動風景から、「地域の子育て支援の場に」という思いを持ち、所有者自らが子育て支援の活動に参画する決意を固めた際の文章が、古民家ママスのブログ巻頭に所載されている。

（以下引用）

古民家の最終章は、０～３歳子育て中のお母さんの場に

ぬくもりのリレー

世田谷に残った築150年の古民家。
わたしがここで生まれたのは68年前のことです。

この家の「限りある命」を考え、残された日々の設計を考えるのは、オーナーの宿題と感じていました。
畳のお座敷はさまざまなサークルに活用されてきましたが、そのなかに、子育てサロン「ママコモンズ」の活動があります。
0～3 歳ころの赤ちゃんを、お座敷であやしながら、手芸をしたり、持ち寄りのおやつでお茶をしたり、お母さんたちは静かに過ごしているようでした。
時には、夕方あかりがともるころまで　玄関先や軒先にバギーやママチャリが並んでいることがあります。
その様は、お座敷のなかのあたたかさや豊かさを伝えているようで、わたしの気持ちもほっと和むのでした。
たびたび目にしたこの光景とこの思いが、古民家の今後を「子育て支援の場に」と方向づける鍵になりました。

核家族化の進展や、社会の閉塞感などが、子育ての難しさを加速させているようです。
「子育て不安」や「孤独な子育て」「引きこもり育児」といった言葉や、子育てをめぐる悲しい事件や事故を聞くたびに、「家をでて、だれかとふれあえる場」「赤ちゃんづれでも、気兼ねなく気軽に立ち寄れる場」が、いかに大切か。そういった場が、地域のなかにすぐにでもほしいのだということがわかりました。
古民家がとるべき方向性が決まってきました。
「これまでの古民家のままで、子育て中の父母に活用してもらおう」、
そして、「子育て中の父母、子育て卒業世代、お年寄り…といった異世代が出会えて、互いにゆるやかにかかわりあえる場に」というところに落ち着いたのです。

古民家が培ってきたぬくもりを、次世代にリレーすることができれば、これこそ最終章にふさわしい仕事といえます。
赤ちゃんとママたちには、古民家のたたずまいはとてもしっくりくるようです。「なつかしい感じがしてくつろげる」「祖父母の家に帰ってきたよう」という声が聞かれます。
そして、子どもをもったこと、母親になったことを「幸せ」と感じてもらえるひとときがあるようです。
その幸福感を、0～3歳の乳幼児期を卒業し古民家ママスを卒業してからも、園で、学校で、そして社会でひろげていってもらいたいと思います。
また仕事に復帰する父母たちにとっても、いつでも戻ってこられる場として地域のよりどころになれれば、こんなにうれしいことはありません。
「子育て第一歩の時期」を見守り、祝福していくことは、古民家の最後にふさわしい仕事。
そんな思いを込めて、ここを「古民家 mamas」と名付けました。
「古民家 mamas」のこれからの活動をあたたかく見守っていただき、ご指導くださいますようお願いいたします。

古民家ママス代表　鈴木誠夫

（引用ここまで）

なお、鈴木氏のインタビューが、財団法人世田谷トラストまちづくりの広報誌「ひと・まち・自然」2010年秋号に掲載されている。

古民家ママスは、現在、以下のように活用されている。

・「ママコモンズ」：月5回（第2月曜日＋毎週火曜日）

・「ママと赤ちゃんのんびりお茶会」：月5回（毎週金曜日＋α）

・「週末コモンズ」月1回（主に第3土曜日）

上記3件はそれぞれ別々のグループが責任を持って運営し、社協の「子育てサロン」として支援を受けている。

・合同イベント「みんなの縁側プロジェクト」（不定期開催）

平成22年度世田谷区子ども基金助成事業として採択が決定した。

・その他

（「古民家ママス」や、その運営に参画する団体が主催するイベント（不定期開催））

（開催スケジュール例示）

8．おわりに

子育てサロンの参加者の多くが、第1子とその母親である。ほとんどが社会人としての経験を持ち、地域と初めてかかわるという点で、彼女たちは定年退職後の男性に似ている。大人の、あるいは営利企業の論理が通じない子育てに直面し、身軽に出歩けない状況で日々を送るなかで、子育て支援施設、あるいは子育てサロンは、近縁ネットワークの構築が難しい現代において、自分と似た境遇の、近所のひとと出会える場として、大変貴重である。

とりわけ、2歳児の親は1歳児の親に、6か月の子の親は3か月の子の親にそれぞれ伝えられるものがある。時間が経ってしまえば苦しいこと辛かったことは消え去り、良かったこと楽しかったことが思い出されるようになってしまう。ほんの少しだけ年上の子どもを育てている「現役の母親」からの、具体的なほんのちょっとした一言・アドバイスが新米の親たちには参考になることも多いのである。「ママコモンズ」に参加することで地域での子育ての第一歩となり、そこから広がりをもち繋がっていけるよう、スタッフは心がけている。

また、子育て中の親が子育てサロンのスタッフをする良さは、成熟した一人の人間として、それまでの自分のスキルを使うことができること、志を同じくする仲間に出会えること、そして社会参画への意欲と実感を得られることである。

子育てサロンは、「できるひとが、できるときに、できることを」やる、と謳いつつも、その実態としては、企画・調整・広報・設営・開催・清算・報告（まるで仕事！）の各スキルが必要であり、さらにそれをまとめる、親愛を持った調整能力とコミュニケーション力が求められる。そして、その労力への対価は（子育てサロンの運営にとどまる限りは）金銭ではなく、自分たちが楽しんで、なにか（実際には、「一緒に子育てする社会」の一部）を作っているという手ごたえなのである。

新築のコンクリートの中ではなく、築160年の「生きている」古民家の心地よい空間の中で、子どもと過ごすひと時は楽しい。そしてまわりの親子のかかわりが、新たな視点を生み、自分→仲間→社会につながっている、広がっていく実感は、対価労働に就くにせよ、地域活動に参加するにせよ、かかわったおとなにとっての財産であり、子どもたちにも財産になっていくに違いない。

古民家が地域に開かれているうちに、たくさんのかたが参加者として、あるいはスタッフとして訪れてくださること、そしてこうした空間が、区内に、日本に増えていくことを、私たちは心から願っている。